

建設未来京都フォーラム 2014 記念事業

◇ 記念事業Ⅱ 建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来
『建設業で輝く女性たち』

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓京都府城陽市 経営者（代表取締役）

ヒアリング日時〓九月八日

▼ 質問①建設業で働く喜び

十八年前、代表取締役社長だった主人が病気で亡くなり、急きよ、社長となりました。当時、私は五十歳でした。経営のことはまったくわからなかったのですが、雇用者もいたので、廃業することはできませんでした。当初、亡くなった主人の同業者も皆さんからも協力してもらい、なんとか乗り切って現在に至っています。元々、二級土木施工管理技士の資格は持っていたのですが、必死で一年間勉強して一級に合格しました。現場では、戸惑うこともたくさんありましたが、なにくそ、と頑張ってきました。

今では、物事はつきりさせる男性の中での仕事が好きになってしまいました。おかげさまで、息子も、建設業を継ぐと言ってくれて、他社で十年間、修行させてもらいました。現在、息子が中心となって経営しています。その嫁も、他社で設計士として働いていて、夫婦揃って建設業関連の仕事をしています。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

建設業は男性中心の社会で、荒い言葉づかいや、炎天下の作業など、女性には厳しいと思うこともあります。真面目に仕事に取り組んでさえいけば、受け入れてもらえると思います。逆に、女性ということではいろいろ配慮して、大切にしてもらえたことも多々ありました。

▼ 質問③建設業の人手不足について

息子が後継者として家業を継いでくれて、ありがたいし、安心して任せています。女性は、事務部門だけでなく、工事受注などの営業面でも、まだまだこの建設業では、これから活躍が期待できるのではないかと見ています。

▼ 質問④建設業の現状を変えていくには

政権が替わって、徐々に工事も増えてきたけれど、やはり税金が予算化されている公共工事は、台風被害などの災害復旧工事が優先されます。そのため九月以降に通常の工事発注が集中し、工事件数が平均化せず不安定な要素が多いと思います。まずは安定政権のもと、工事件数が増えることを期待しています。

◆ヒアリングを終えて

京都府城陽市の住宅街にある素晴らしい和風建築の住まいにある事務所でお話を伺いました。聞けば、もとは庄屋屋敷だったそうで、広いお座敷には、古式ゆかしい檜とすげ笠が飾ってありました。ヒアリングのあいだ中、人懐こいキューちゃんというマルチーズ犬が寄り添ってくれました。

六十代後半の奥様は、現在も現場にも出られているとのことですが、たおやかで

楚々とした雰囲気で、輝くお肌を保っていらつしやいました。気分転換はエステとお嬢さんと一緒に旅行へ行くこと。男勝りではなく、男性社会のなかでいいねいに辛抱強く働いてこられた、なでしこの花のような方でした。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓京都市伏見区 二名の従業員の方

ヒアリング日時〓九月八日

▼ 質問①建設業で働く喜び

建設業という、おもに男性が現場で活躍する業種では、コミュニケーション力をはじめ、女性の感覚の活用が必要だと思います。

女性が、無理して現場で男性並みに力仕事をすることはありません。男性と女性の役割分担を明確にして、女性は事務所でのバックヤードをしっかりと守ることが大切だと思いますし、そのように社内業務に取り組んでいます。

職場では、私たち女性二人でいろいろ相談しながら、前向きに仕事に取り組んでいます。今後、建設業の営業でも女性が活躍するような時代がやってくると見えます。私たちは、中途入社したので、異業種で経験したスキルを建設業で活かしたいと思っています。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

社員数は約二十名。社長の構想で、将来に向けて下請けだけではなく、元請企業になるため、全社的に資格取得を目指しています。今年度は土木施工管理技士一級を私たち女性二人含め社員四人が受験して、全員一次試験に合格しています。

▼ 質問③建設業の人手不足について

社員募集業務を担当していますが、若い労働者がいない！求人募集をしても社会常識のない、ドロップアウトした若者の応募が多く、就職しても一日で辞めてしまいい、続かないのです。学校教育においても、建設業の意義や素晴らしさを教育し、社会常識や技術、資格取得の重要性を指導してもらいたいと思います。社員にも、新入社員を紹介すると報奨金を出し、さらに継続すると一年ごとに紹介料を支払うなど、工夫をしています。なかなか定着しないのが現状です。

▼ 質問④建設業の現状を変えていくには

警察や消防庁でもカッコいい現場男子の写真集やカレンダーを出版して、若い人材募集を行っているように、女性があこがれるような現場男子を社会にアピールして、イメージアップを図ったらどうでしょうか。

◆ヒアリングを終えて

白い三階建ての社屋の広々とした会議室でのヒアリング。女性社員お二人との面談。二人ともとてもおしゃれで、ソフトな雰囲気でした。

社長は、長身にピンクのシャツに白のズボンの似合うスタイリッシュな方でした。明確な経営ビジョンをわかりやすくお話しくださり、会社の方向性を社員全員が共有することが大切だと強調されました。また、将来に向け、常に、四十〜五十人規模の社員数を確保して、各世代に社員がいる状態を目指しておられるそうです。

そのためにも後継者育成の必要性があり、さまざまな手段で求人募集していて、社員にも協力してもらおうような報奨金制度を実施しているということでした。

今回、ヒアリングにに応じてくださったお二人は、テキパキと答えてくださり、社長の女性の意見を積極的に取り入れる方針にしっかり応えておられるようです。

将来を見据えた若き経営者のもと、女性の飛躍的な活躍が期待できる職場だと確信しました。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓長野県 従業員

ヒアリング日時〓九月（メール回答）

▼ 質問①建設業で働く喜び

私は人との出会いが多くあることが、一番喜びです。もちろんモノづくりにはたずさわることによりがいを感じ、誇りを持つて仕事できるこの仕事が好きなのですが、長年仕事をしてきて、今思うことは、うれしいことも悲しいことも悔しいことも誇らしいこともすべて人から受ける感情だと思っております。そんな中、この仕事はいつも違った場所で、いろんなチームで、いろんなお客様や地域の方々とは触れ合いながら仕事ができることにやりがいを感じていますし、喜びを感じます。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

息子は現在十四歳になりますが、産休・育児休暇を取る際に、会社に経験（前例）がなく、大変でした。また、妊婦で現場にいましたが、それもまた大変！！そして、子育てとの両立は、母親としての気持ちと、技術者としての責任感で何度涙が出たかわかりません。

でも、家族の支えもありましたし、そんな過去があるから、今の私があると思っております。・・・（今は手が離れてしまつて逆にさみしいくらいです（笑））そんな大変だったときは、同じ現場の職員にできるだけ事情を理解してもらおうようにしていました。私の周りの人は皆、理解があつて、たくさん助けられました。

昔は、トイレや現場事務所・休憩所などの作業環境の点で、難があり苦労したことはありましたが、最近は特に感じません。

しいて言うなら、私自身は、特に女性扱いされなくていい（仲間として見てほしい）と思うのですが、どうしても女性として見られ、煩わしいと思う事がある事・・・くらいです。

▼ 質問③建設業の人手不足について

この業界はアピールがあまり上手でないような気がします。また、近年では低収入や、仕事の減少で、人員を削減してきた会社は少なくないと思います。私の会社でも社員が一番多いときの半分です。私は施工管理技士の支部の役員をしています。技術者の数は最盛期の三分の一で減少しています。また、長野県の技術者の平均年齢は、四十八歳程度。昨年の調査では、県内の二十代の一級施工管理技士は十人以下だそうです。また、女性の一級施工管理者も、県内で七人だそうです。これらは建設業の仕組みに問題があるように思えてなりません。今後私たちが一番力を注いでいかなければならない事は、若手の育成だと感じています。

▼ 質問④建設業の現状を変えていくには

躍進的な改善策は私には考えが及びません。ですが、雇用の確保と、仕事や技術

力に見合う給与体系の充実、また、書類の簡素化・・・(業務の軽減)など、変化していかなければならないことはたくさんあると思います。

まずは、外から業界を見たときに、スマートで希望を持てる業界である事が一番だとおもいます。その下地準備として、諸先輩の方々に育てていただいた私たち中堅世代が、これから声をあげていかなければならないと私は感じています。

◆ヒアリングを終えて

現場代理人として、現場で働き続けて来られた、まさに「ドボジョ」のパイオニア。子育ての両立での苦労話は、同じ女性として胸に迫ります。そんなこともコミユニケーション力でしなやかなに乗りこえられてきたようです。今では、成長した息子さんの親離れがさみしいくらいだとのジョークが、楽しい方！こんな素敵な先輩が、前例を一つずつ積み重ねていくことによって、建設業が、女性がいきいき働ける職場へと変化していくのだと改めて感じました。

建設業は、社会へのアピール力、発信力が弱いとのご指摘は、まさに同感です。建設未来京都フォーラムでは、建設業本来の素晴らしさを社会へ発信していきたいと考えています。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地 〓京都市伏見区 経営者夫人

ヒアリング日時 〓九月十一日

▼ 質問①建設業で働く喜び

家業である建設業の二代目の嫁として四十年やってきました。その後、現社長の妻として子育てのあと、会社の総務・経理業務を担当するようになりました。

毎朝、七時十五分には出社し、七時五十分から朝礼というのが日課です。

当社はおもに電気設備を扱う会社で従業員が約二十名。会社が軌道にのり、社長が地域貢献などの社会参加もできていることがありがたいことだと思います。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

社員の健康管理や福利厚生なども担当していますので、社員同士の親睦会開催など、コミュニケーションを図るような機会を設定しています。

うちでも社員の高齢化、技術継承が課題となっています。社員には、とにかく一日でも長く働いてもらいたいと願っています。社員には業務に必要な資格を積極的に取得するよう奨めています。

▼ 質問③建設業の人手不足について

高校電気科やポリテクセンターに求人を出しています。現場女子も採用しましたが、残念ながら続きませんでした。そんな状況のなかで、去年から高校電気科の新卒採用者（男性）が一名、順調に育っているのが嬉しく、期待しています。採用に併せて、雇用の整備も充実させました。

また、女性社員が家庭と仕事を両立できるように、子どもさんの参観日などの行事への参加しやすいように勤務時間を融通したりしています。

▼ 質問④建設業の現状を変えていくには

アベノミクスでようやく景気回復の効果が見えてきたところです。建設業で労働者を定着させるためには、賃金をはじめ労働条件が良くないことには、人材確保は難しいと考えています。

◆ヒアリングを終えて

子育てを終えてから、社長夫人として、経営に参画し、総務・経理担当者として、会社を支えてこられた方。風格あるビジネスウーマンながら、柔らかな従業員を包み込んでおられるようでした。

お孫さんも会社の親睦行事に参加されることもあると、目を細めておられました。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

—建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来—

会社所在地 〓京都市伏見区 従業員

ヒアリング日時 〓九月十一日

▼ 質問①建設業で働く喜び

子どもが二人いますが、しっかりと定年まで正社員として働きたいと考えて、この会社に就職して六年目になりました。会社は子育てに協力的で、授業参観などの学校行事への参加にも配慮してくれますし、福利厚生面でも社員を大切にしてくれています。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

朝七時四十五分に出社するので、母親である私が先に家を出て、子どもたちの登校を見送れないことが申し訳ないと思っています。ただ、母親が働きに出た後、子どもだけで朝食を食べて、ちゃんと育っているのが嬉しいです。

終業時間は五時なので、学童保育を終えて帰ってくる子どもとは、ゆっくり夕食をとり宿題なども見て、できるだけ一緒に時間を大切にするようにしています。

▼ 質問③建設業の人手不足について

現在、従業員の資格取得を会社で取組んでいます。より難度の高い技術が求められる業界のなかで、発展していくためには、こうした努力がかかせないと思います。よい人材を獲得することは、本当に大変なことだと感じています。

◆ヒアリングを終えて

小学五年生と三年生の子供さんを育てながら働くお母さん。朝の出勤時間が子どもたちより早く、健気に子どもたちだけで朝食を済ませていると、気遣われています。

ときどき、子どもたちも会社行事に参加したり、会社へ連れてきて、仕事場のデスク周りを見せたりされるそうです。一生懸命働く母親の姿を見せることによって、子どもたちはきつと理解してくれると信じています、とおっしゃっていたのが印象的でした。お母さん、がんばって！

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓京都市伏見区 経営者夫人

ヒアリング日時〓九月十一日

▼ 質問①建設業で働く喜び

子育てを終え、五年前から本格的に総務・経理や入札業務を担当しています。社長をはじめ社員の健康管理にも常に注意しています。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

家事との両立で忙しい面もありますが、なんとか会社を発展させていきたいという思いでがんばっています。

銀行を含む取引先からできるだけ、建設業にいいイメージを持ってもらいたいと最近、事務所を改装しました。職住分離になり、近くですが、自宅から会社に出勤してきています。自宅と事務所を分けることによって、仕事と生活にメリハリが生まれきました。

また、社内の、コミュニケーションを図るため、一カ月に一回は、ランチ会を開催しています。

▼ 質問③建設業の人手不足について

工業高校を卒業した新人を一名採用しましたが、指導は工事課長が直接あたって大切に育てています。一人前になるには十年はかかりますが、しっかり育て上げたいと会社として指導に取り組んでいます。現場監督ができる人材を育てるため、資格取得を社内ですめています。下請けではなく、できるだけ多くの元請け受注をめざしているからです。

子どもたちに後継者になることを、できるだけ押し付けたくないのです、なりゆきに任せて見守っているところです。

▼ 質問④建設業の現状を変えていくには

建設業のイメージを少しでも変えたいので、事務所にいる間は、身だしなみにも気をつけるようにしています。女性の地位がまだ男性より低いといわれる業界ですが、実際、現場経験のある女性も知っています。これから、ますます女性の活躍が期待できる業界だと思います。

◆ヒアリングを終えて

壁に太陽発電のボードが掲示してあるモダンな事務所にお訪ねしました。はじめにお目にかかった奥様は、ポニーテールが似合う可憐な方で、二十一歳、高校三年生、中学三年生のお子さんがいらつしやると聞いて驚きました。社長と二人三脚で建設業である自社のイメージアップにも、様々なアイデアを考えだし、実践してもらいました。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓京都市南区

従業員

ヒアリング日時〓九月五日

▼ 質問①建設業で働く喜び

約二十五年前、沖繩から家族一家で転居してきました。デパートでの化粧品販売員、保険会社の営業を経験していた経歴からか、現社長に採用されました。

社長とともに小さな会社から懸命に働いてきて、現在、約二十名の社員を抱える企業になりました。総務・経理業務を担当してきました。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

毎日、社長、社員一人ひとりの顔色や健康を見て、女性目線で対応しています。たとえば、気づいたことすべてを言うのではなく、考えてもらえるきっかけになるような言葉を探して、少しでもだけ伝えるようにしています。すべて、言い切ってしまうと、男性の方々はなかなか受け入れてくれないように感じます。

▼ 質問③建設業の人手不足について

特に（道路などの）舗装業はスピードが求められるので、夜間作業もあります。現有社員の年齢は二十〜五十代ですが、大変な厳しさがあると思います。建設業界の雇用不足は切実だと痛感しています。

◆ヒアリングを終えて

多彩な職業で培ったキャリアを見込まれて、社長の片腕となって会社をささえてこられた、南国の花、ハイビスカスのような明るいお人柄。こまやかな心遣いと、時には、シャープな忠告をメリハリつけて使い分け、社長をはじめ従業員さんを見守っておられるようです。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓京都市右京区

パート従業員の名の方

ヒアリング日時〓九月二日

▼ 質問①建設業で働く喜び

私たちは二人とも主婦なので、働く喜びというような大層なことではなく、家計が少しでも楽になれば、とパートで働いているのが正直なところ。ただ、同じ職場で、同世代の女性同士、お互い気心がわかってるので、安心して仕事に取り組めます。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

男性中心の業界ですが、私たちに對しても、ていねいな言葉づかいで接してくれます。今まで、特に男性から乱暴な言葉や差別的な扱いを受けたことはありません。女性社員の業務内容は総務や経理や、写真整理、CADの補正作業などの社内業務を担当しています。作業着の発注手配や建設道具の調達も行っています。

▼ 質問③建設業の人手不足について

この業界の人手不足は深刻だと実感しています。当社でも募集をすると、応募者の大半が三十〜四十代のリストラからの応募が多く驚いています。資格がものをいう業界であり、人材が定着するためには、資格取得をめざさせる労働環境づくりが必要だと感じますが、なかなか実現困難だと見えています。

▼ 質問④建設業の現状を変えていくには

政権や景気の影響を受けやすく、受注工事件数の増減が大きくて、将来保障の不安な業界だと思います。自分子どもたちが建設業で働くことについては、現場代理人や設計業務ならば賛成しますが、現場作業だけなら賛成できません。また建設業の財務は、しっかりしたコスト管理を行わないといけないと思います。ドンブり勘定では成り立たないと思います。

◆ ヒアリングを終えて

事務所では四人の女性が働いており、勤務時間は九時から五時。男性社員は、早朝から現場へ行き、顔を合わせることは少なく、社員数は十名余りとのこと。現場と事務所が分かれており、日常、特にこの業界が男性社会だと意識することはないとのこと。

お一人の方は、同じ建設業で働く、朝五時に現場へ出かけるご主人のお弁当を作った出勤を見送ってから、出社されているということでした。朝が早いうえで残業が続くご主人の慢性疲労を心配されていました。

今回、ヒアリングにに応じてくださったお二人は、三十〜四十代で転職入社された、しっかり者の働く女性です。主婦として、生活者の目線から冷静に建設業の実態をとらえておられました。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

— 建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来 —

会社所在地 〓 京都市右京区 経営者夫人

ヒアリング日時 〓 九月二日

質問① 建設業で働く喜び

社長の妻として総務・経理業務を担当しています。喜びというよりも、建設業の経営は本当に大変という、実感の方が先立っています。

数年来、工事件数が減り、人件費もかさみ利益が出ない状態が続いています。昨年からは、自然災害が多発し、その復旧工事が増えたものの、政権が変わって、景気も回復してきたと言われますが、うちのような小規模事業者にはまだ先行きが見えません。

社長は現場から帰ってきてから、夜も積算などデスクワークで徹夜作業することもあります。とにかく、健康と安全第一で、頑張ってもらいたいと思います。

▼ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

経理担当としてコスト管理の重要性を社長に訴えるのですが、現場を知っている社長とは、経費を巡って意見が対立することもあります。夫婦での家族経営は気苦勞もあり、大変な面も多いのです。

質問③ 建設業の人手不足について

現社長は建築学校を卒業して家業の建設業を継ぎましたが、不安定な業界なので、自分たちの子どもには継がせたくないのが本音です。

▼ 質問④ 建設業の現状を変えていくには

政治の影響を受けやすいので、安定政権が望ましいと思います。

◆ ヒアリングを終えて

京都市から車で四十分。京北トンネルを抜けると、初秋ののどかな風景が広がっていました。木造平屋建ての自宅兼事務所でのヒアリング。広々とした事務所にはゆったりした応接コーナーがあり、ハナちゃんと言メちゃんという二匹のチワワ犬の愛らしいお出迎えもあり、なごやかな雰囲気が始まりました。

建設業という家業を夫妻で経営し、経理の切盛りは、厳しいものがありますと、率直にお話くださった奥様は、チャールミングでありながら、しっかり者の京女とお見受けしました。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地 〓 京都府城陽市 経営者夫人

ヒアリング日時 〓 九月五日

▼ 質問① 建設業で働く喜び

九州から夫婦で京都へ転居してきました。真面目で働き者の夫（社長）を支えて懸命に働いてきました。夫を盛り立てるために、身を粉にして、経営者の妻としてやれることはすべてやってきました。

ケーキやお菓子作りが趣味で、お世話になった皆さんに差し上げて、喜んでいただけるのが嬉しいのです。喜んでいただいて、それが営業のきっかけになり、会社の売上に貢献したこともありました。

▼ 質問② 一番苦労や工夫をしている点

経理、総務を担当しており、工事の受注などの営業も私が担当してきました。さらに最近では、要介護の義母と同居するようになり、面倒を看ています。事務所と自宅が一緒なので、体がいくつあっても足りない状態です。

▼ 質問③ 建設業の人手不足について

人手不足は他人事ではないと感じています。また、女性の雇用拡大も必要だと思います。しかし、まず、女性ができることを一生懸命やるのが大切ではないでしょうか。

◆ ヒアリングを終えて

訪問の当日には、熱々のピザを焼いて出迎えてくださり、さらにお土産にたくさんクッキーをいただきました。人の喜ぶ顔を見るのが大好きという、エネルギーで明るい女性です。多忙であっても、趣味のお菓子作りに没頭することで、気分転換できるということでした。プロ顔負けのピザとお菓子に舌鼓。

九十四歳のお義母さまの介護もこなし、さらに経営者夫人として活躍しておられます。大輪のひまわりのような笑顔でインタビューに答えていただきました。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

—建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来—

会社所在地 〓京都市左京区 パート従業員

ヒアリング日時 〓九月五日

▼ 質問①建設業で働く喜び

事務所で現場作業員の給与計算、積算関連の書類作成、重機車両の保険や車検の管理、工事設計書の修正などを担当しています。毎朝、七時半には事務所を開けて、現場へ出かける社員を見送ります。現場の下見に出かけることもあります。冬には事務所の暖房を入れて、除雪作業員のおにぎりの手配を行うなど、業務は多種多様です。勤務時間は七時半から十七時半までです。

事務所では、女性一人だけのパート従業員。男性社員からは、認められていないと感じるときもあります。

たとえば、まともに名前でも呼んでもらえず、おばはん・・・などと呼ばれるので、落ち込む時もあります。せめて〇〇さんと名前でも呼んでほしい。けれども、自宅から至近距離の勤務先ということもあり、自分の小遣いが稼げて、少しでも家計を助けるためにと、辛抱しています。現状では働く喜びということは残念ながら感じられないのですが、割り切って、働いています。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

男性社員のなかで、女性一人なので、バカにされないようにと、負けん気だけで頑張っています。地域性や会社によっても差があると思いますが、建設業の男性社員は、せめて言葉づかいだけでも、改善した方がよいと思います。なかなか自分の立場では言い出せませんが・・・。

▼ 質問③建設業の人手不足について

とてもそんな大層なことを語れません。ただ、建設業界では女性の働き手が少なく、地位が低いと感じています。また、小規模経営が多いので、なかなか業界全体でのまとまった課題となりにくいのではないのでしょうか。

◆ヒアリングを終えて

男性社員のなかで女性一人、パート従業員として、たくましく働いておられます。苦労話もサラリとお話しされる、明るい方でした。午前七時半の出勤前に、ご家族のために朝食とお弁当を作ってくるとおっしゃる笑顔は、家族思いの働くお母さんの顔でした。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

—建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来—

会社所在地 東京都北区 経営者夫人

ヒアリング日時 九月八日（電話ヒアリング）

◆質問①建設業で働く喜び

事務員として入社したのち、現社長と結婚しました。現在、社員は三名。別に経営している環境関連の会社（社員二名）が同じ事務所内で営業しています。総務・経理業務を担当しています。

勤務時間は、九時から五時が基本。日中、社内にいるのは同じ六十代の事務担当の女性と私の二人だけです。社長以外の男性社員は早くから出かけ、ほとんど現場へ直行直帰するので、顔を合わすことは少ないです。

元請、直営、下請けと多様な工事を行っていますので、業績に大きな変化はありません。去年に続き、最近は自然災害の工事に追われています。

少しでも手助けできればと、十数年前に私も現場代理人二級の資格を取りましたが、ほとんど活用できていません。

▼質問②一番苦労や工夫をしている点

社員全員六十歳以上の高齢者ばかりなので、いちばん気をつけているのは、従業員の健康と安全。おかげさまで社長をはじめ、皆、元気に現場で働いています。

▼質問③建設業の人手不足について

後継者については、息子は他業種に勤務しており、この仕事も自分たちの世代で終わると思います。

▼質問④建設業の現状を変えていくには

とてもそんな大層なことは言えませんが、淡々と社長とともに、この仕事を真面目に続けてきただけです。

◆ヒアリングを終えて

ゆつたりと、ていねいにお答えしてくださいました。経営者夫人として、家業である建設業をバックヤードからしっかり支えてこられたという印象が伝わってきました。ご自分の果たす役割などについても、非常に遠慮深く、謙虚な受け答えに終始され、「夫唱婦随」という、言葉を久しぶりに思い出しました。

現在も元気に働いておられる社長が、健康で仕事が出来ていること自体に、感謝されているご様子でした。電話でのヒアリングでしたが、所在地である静かな京都市北部の田園と濃い緑の山々に囲まれた事務所が浮かんでまいりました。

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓京都市北区 パート従業員

ヒアリング日時〓九月八日（電話ヒアリング）

▼質問①建設業で働く喜び

事務員として他業種で働いていました。退職後の約八年前から、写真整理などの社内業務担当で勤務しています。車で約十分のごく近所から通勤しています。

日中、事務所にいるのは、社長夫人と私の二人です。毎日、元気で勤めさせていただくことがあります。現在、おもに同じ事務所にある別会社の環境関連の仕事を担当しています。

▼質問②一番苦労や工夫をしている点

私に与えられた仕事を、なんでもきちんと、期日までに終えるようにこころがけています。現在、おもに同じ事務所にある別会社の環境関連の仕事を担当しています。

▼質問③建設業の人手不足について

災害復旧の仕事に追われていますが、特に私から言えることはございません。

◆ヒアリングを終えて

事務職経験を活かして、退職後、勤務した現在の職場で、同世代の社長夫人と一緒に元気で働いておられます。

二年前にご主人を亡くされたとのことですが、毎日、同世代の社長夫人とともに仕事に励むことがなにより嬉しいとのことでした。（すずらん）

建設未来京都フォーラム記念事業

『建設業で輝く女性たち』ヒアリングシート

―建設業で働く女性や経営者夫人等、女性たちが語る建設業の未来―

会社所在地〓鹿児島県 経営者

ヒアリング日時〓九月（メール回答）

▼ 質問①建設業で働く喜び

実家が建設業だったので成り行きで経営者になったので、自らの選択ではない分、正直、あまり喜びを感じられない・・・。

ただ、若い社員は自分が携わった工事が完成すると、後世に残る構造物が出来る喜びがあり、自分の子供にも自慢できる素晴らしい仕事だ！と申しておりました。

▼ 質問②一番苦労や工夫をしている点

『公共事業』イコール『儲かる』みたいな偏見が未だにあること。入札の落札率が高止まりなどと言われることもあります。適正な積算に基づけばそんなに落札率を下げることは出来ないと思うのですが、これがまかり通る発注者の理解の低さにビックリさせられます。市長査定なるものもあり8%もカットされるのです。おかげで現場は厳しい原価管理を強いられています。

取引先の資材業者や下請けには頭を下げて協力をお願いします、持ちつ持たれつの良好な関係の構築を心掛けています。

▼ 質問③建設業の人手不足について

構造的な問題で、素人がすんなりと働くには覚える事や安全面でのルールも厳しく、若い人達が続かないのです。特に現場内で作業を行うには色々な資格取得や技能講習などを受けることが義務化され、これらを受けるには、高い費用負担が発生します。もちろん様々な補助金も受けられるのですが、他の業界と比較しても資格取得や免許の更新などに費用がかかり過ぎだと思えます。医者でも免許更新がなく、必要な技術や新しい知識などは学会での勉強会を活用しているというのに・・・。

建設業は監理技術者の講習や免許更新などで何万円も使わなければ資格を保有することすら出来ない、理不尽なシステムだと感じます。

あと、人を育てるシステムが確立されておらず、今の若者に旧態依然の『見て覚える』や『スパルタ式』では太刀打ち出来ないのではないかと。今後は『褒めて伸ばす』にシフトし、根気強く指導することが必要と考えます。しかし、指導するには、時間がかかるし、業界が高齢化している現状では困難だと見ています。人手不足の解消には斬新な改革が必要だと考えます。

▼ 質問④建設業の現状を変えていくには

やはり女性と建設業を定年した高齢者の活用だと思えます。男性社会に女性の感性を取り入れる事でいい化学反応が期待出来ると思います。

私は女性ですが、現場代理人や主任技術者という立場で現場にいるので、経営者でもあり、誰も逆らう者はいませんが、一般的には、女性ではなかなかそうはいか

ないような気がします。

そこで、建設業界に不慣れなため苦戦する女性社員をサポートできるのが定年した経験者の皆さんではないでしょうか。

一度退職してれば気持ちにも余裕ができ、女性社員の育成を任せるには好都合だと思います。また、定年退職者は、現職社員にとっては元上司であり反発し難い関係なので、男性社員が女性社員を快く思わない場合でも教育係が元上司だと、真面目に指導を受けるのではないのでしょうか。その間に女性社員がスキルを上げて、さらに次の女性社員の教育係になるという好循環を作り上げるのです。

建設業界という男性社会に、女性の感性を入れる事でいい化学反応が期待出来ると思います。建設業界に占める女性の割合が増加して行くことが人手不足の解消にも繋がるのではないかと思います。

建設業はとてもスケールが大きく魅力ある仕事なのに、それが社会に上手く伝わらない・・・。うちの会社では、毎年地元の中学校の職場体験を受け入れていますが、子どもたちは、バックホウを運転したり、建設現場で作業をしたりとても楽しそうです。

「イッテQ」という番組では、スポンサーに清水建設がなっています。子ども達の笑顔が印象的でないCMが放映されています。これからは子どもや若い世代への発信力も必要になると思います。

◆ヒアリングを終えて

家業の建設業を営業者として、また、現場にも監督者として出かけるなど、活躍されている鹿児島県の女性の声。営業者として、女性として業界の現状を冷静に見つめておられます。

建設技術者には多様な資格が求められるが、取得にコストがかかりすぎるとのこと、他の職業に比して不均等だとのこと意見は、中堅技術者としての率直な見解だと同感しました。

男性社会の建設業に、女性の感性を活かすことで、建設業により変化が期待できるはず、ともおっしゃいます。具体的には、高齢者（男性）技術者の経験値を後進の指導に活用すること、そしてその間に女性がスキルを高めるといふ、イメージは、男性と対立したりするのではなく、協力や協調を得ながら、建設業で働く女性の輪を作っていきたい、というエールと受け止めました。